

長泉町・さわやかハイク報告書

通算山行 NO	個人山行	報告者	村上美恵子
年 月 日	2010年02月21日 (日・快晴)	2万5千	八ヶ岳西部
場 所	八ヶ岳・硫黄岳 (2,742m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=ある 駐車場=ある・赤岳山荘(¥1,000) トイレ=ある・赤岳山荘 展望度=良い 三角点名=箕冠 等級=三等			
山頂からの大パノラマに感動！			
コース とタイム	下土狩5:15—小淵沢IC7:06—美濃戸赤岳山荘駐車場出発8:00 —赤岳鉱泉9:45—赤岩の頭11:30—硫黄岳頂上12:00—赤岩の 頭(昼食)12:20~40—赤岳鉱泉13:25~35—駐車場14:3 0—下土狩18:20		
参 加 者	後藤隆徳・中村圭吾・石和加代子・村上美恵子		

当初、八ヶ岳の西岳に登る予定だったのですが、八ヶ岳に向かう車の中で「今日は、とてもよい天気なので、西岳から硫黄岳へと予定を変更する。」と、リーダーから告げられました。

やったあ～！私は冬の硫黄岳へは是非上ってみたいと思っていたので、心が躍りました。美濃戸口から美濃戸までの林道も今日は走りやすい雪道で、7:40赤岳山荘の駐車場に到着、登山の身支度を整えて出発前のトイレを済ませようと駐車場から少し離れたところにあるトイレに向かいました。

一番奥のドアをノックすると、後藤さんの声が帰ってきたので、ひとつ手前のトイレに外鍵をはずして入りました。後藤さんの隣で何となく恥ずかしい感じも受けたのですが、山ではそんな事言っではいられないので、さっさと用を済ませ外にしようとしたら……あら？開かない！何度も鍵をガチャガチャやってみても開かない！ドン



と隣から声を掛けてくれ、「ドアが開かないんです！」と私。「ええ？ちょっと待ってろ！もう少しだから…」と後藤さん。そして、用が済んだ後藤さんがトイレの外に出て見ると、私の入っているトイレの外鍵がしっかりとかかっているとの事！直ぐに開けてもらえるかと思ったら、「待っているこんな事は珍しいから写真を撮る！」と私はトイレの中で待たされ・・・そして鍵を開けてもらった私はやっとトイレから出ることができました。

でも、たまたま後藤さんが隣にいたのでよかったのですが、これが一人の時だったらと考えたらぞっとしました。後でよくよく考えてみると、外した鍵をぐるりと下までもってこなければ

ばいけなのをちょっとはずしただけで上向き状態になっていた鍵がドアが閉まる衝撃でカタンと元の位置に落ちて鍵がかかってしまったのではないかと思います。こういった鍵はしっかり開けるといふ、よい教訓になりました。

8:00美濃戸、赤岳山荘駐車場を出発。

北沢コースを赤岳鉱泉まで向かう。

美濃戸からの長い林道歩きが終わり、北沢に架かる橋を、数回渡り返しながら進んで行くと、前方に大同心、小同心の岩峰を連ねた横岳の西壁が姿を現し、私はその景色にますます心が躍りました。

雪は締まっていて歩くたびにキュッキュッと音がして気持ちいいほど歩きやすく、途中1回の休憩をして、約1時間40分ほどで、赤岳鉱泉の名物のアイスクャンディー（氷柱）が見えてきました。数名の方が氷壁に挑戦していました。また赤岳鉱泉の周りにはテントが沢山張られて、中には韓国人の姿もみられました。



硫黄岳への登山道は、赤岳鉱泉の玄関前から、樹林の中へと登るように案内が出ていました。

結構深い雪なので、アイゼンを装着かと思いきやまだアイゼンは着けないで登るとの事！しばらくは頑張って登ったのですが、さすがに急な登りになると、登っても登っても戻ってきてしまい、見かねた後藤さんからアイゼン装着の指示がでました。アイゼンを履いたら、雪をしっかり捕まえる事ができ、さっきまでの歩きがうそのように楽になり、樹林帯の中を登って行く事ができました。しかし、登って行くうちにだんだん疲れがでてきて「今日は山頂まで登れないかも？」なんて弱気

な気持ちが出てきて、ゼイゼイハーハー状態に・・・

それでも、皆が励ましてくれるので何とか足を進めて、木々の間から力強い赤岳の姿が見える場所で休憩をとり、またゆっくりと山頂を目指しました。

樹林帯を抜けるとますます雪は深くなり、目の前には白い壁のような登りが青い空に向かっていました。上から降りてくる初心者らしき人が恐がってなかなか降りてくる事ができずにいるので、下ってくるのを待っていると、後にいた後藤さんと石和さんは左にルートを変えて登って行ってしまいました。

私はそのまま真っ直ぐ進むも、思考力なし！ただただ必死でその雪の壁を登り、視線



美恵子さん、一人旅



が壁の上に出たとたん、「何、ここ！！！」と叫んでしまったのです。



目に飛び込んできたのは広々とした雪原、そしてその向こうに見える雪を被った山々！思いもかけなかった絶景に思わず出たこの声を聞いた方は笑っていましたが、あれは感動でした！そして、登りついたところが赤岩の頭だということにはすぐ気がついたのですが、景色を楽しむ時間はなく、右手、硫黄岳山頂方向に尾根を登り、岩場を慎重に乗り越えて12：00硫黄岳山頂に到着

ヒマラヤみたいな美しき山々



広い硫黄岳山頂からの展望はまさに絶景！間近に迫る横岳、赤岳、阿弥陀岳は迫力満点で、北には以前冬に登った天狗岳と蓼科山、そして、その後方には北アルプスの山並みが見えていました。壮絶な硫黄岳の爆裂火口も今日はしっかりと見ることができました。

しかし、じっとしているとやはり寒いので、記念写真を撮って早々に赤岩の頭まで下り昼食を取りました。おりしも、明日は後藤さんの誕生日、一人ビールでお祝いしている後藤さんにHappy Birthday♪でも歌いましょうかと言ったのですが断られてしまい、2.22のサインで写真を撮ってお祝いでした。



平成22年2月22日なのだ

今回もいい山でした

12:40、下山開始。

さっき登った急な坂を、今度はザックザックと下り、ゆっくり登ってきた登山道も、どんと降りる事ができます。1時間ほどで赤岳鉱泉に着き、アイゼンをはずしました。

そこからの道も、滑るように歩き（といっても雪がキュッキュツとしていてスルーとは滑らなかったのですが・・・）14:30美濃戸着。今回も、素晴しく条件のいい冬山登山日和で、雪山を堪能する事ができ感動しました。硫黄岳とても素晴しかったです。ありがとうございました。

え～、手をつないでいる??!!

